第573回　長野放送番組審議会

１．開催年月日　令和８年10月７日（水）午前11時より

２．開催場所　　長野放送本社会議室

３．委員の出席　　○委員総数　　８名
○出席委員数　７名
○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）
林　　新一郎　　委員長
井上　裕子　　副委員長
笹本　正治　　委員
中谷　冨美子　　委員
中山　　潔　　委員
樋代　章平　　委員
南澤　光弥　　委員
○欠席委員の氏名（敬称略）
新芝　正秀　　委員
○放送事業者側出席者名
須垣　有司　（代表取締役社長）
早川　英治　（取締役　報道制作・デジタル推進担当）
小林　　修　（取締役　編成業務・放送番組審議会担当）
伊藤　晴彦　（報道制作局長）
嶌田　哲也　（編成業務局次長　兼　放送番組審議会事務局長）
手塚　かおり（編成業務局次長　兼　編成部長　兼　視聴者室長）
黒岩　祐治　（報道制作局制作部長　兼　デジタルメディア部長）

４．議題
（１）番組審議

『ＮＢＳフォーカス∞信州　ぶらりＱ旅　～誕生150年　長野県のヒミツ～』

（令和８年７月31日（金）午後７時～７時57分放送）

（２）視聴者対応報告（令和８年９月分）

（３）番組種別報告（令和８年４月～９月分）

（４）10月期番組改編について

（５）その他

５．議事概要

（１）番組審議

主な意見・感想

・長野県誕生 150 年を機に県全体を見直す企画には意義があり、旅・歴史・クイズを組み合わせた構成は、視聴者が関心を持つきっかけになる。

・クイズ形式は親しみやすく、地元の視聴者にも知らない話題があった。娯楽番組として気軽に楽しめた。

・安曇野の山々や春の花、寝覚の床、千畳敷カールなどの映像が美しかった。紹介しきれないほど県内に見どころがあることも感じられた。

・開智学校、善光寺、上田城などを取り上げた一方で、歴史的背景の説明が浅く、「ヒミツ」というタイトルに見合う発見が少ないと感じた。

・クイズや話題の数が多く、興味を持ったところで次へ進むため、一つ一つをさらに掘り下げてほしかった。

・開智学校の紹介では、学校教育や地域の教育史にもう少し触れてほしかった。ほかの学校との比較も考えられた。

・伊那県、中野県、長野県、筑摩県を経て現在の長野県に至る流れは興味深かった。その一方、県庁所在地や県名が決まった経緯には、もっと説明が欲しい。

・製糸業からみその生産、精密機械製造へと話がつながる部分、岡谷蚕糸博物館での紹介は、地域の産業を考えるうえで興味深かった。

・善光寺については、柱の数を取り上げた後も、その意味や建物に関する話題を掘り下げる余地があった。

・県歌『信濃の国』や県ゆかりの作詞家・作曲家の紹介では、歌詞を当てることにとどまらず、作品や人物のつながりを知りたかった。
・県内の広い範囲を巡る企画として、伊那や飯田などの南信地域の扱いを増やしてほしかった。
・上田城でのクイズから別の地域の話題へ移る場面などでは、旅として現地を訪れた意味や、話題のつながりが分かりにくかった。
・県外出身の若手アナウンサーを回答者にしたことで、県民には当たり前のことを新鮮に受け止める視点が生まれた。一方で知識やテンションには疑問が残った。
・長野県誕生 150 年という節目について、後世に残るような、さらに重みのある番組も期待したい。

（２）視聴者対応報告（令和８年９月分）

資料に基づき、編成部より報告を行った。

（３）番組種別報告（令和８年４月～９月分）

資料に基づき、編成部より報告を行った。

（４）10 月期番組改編について

資料に基づき、編成部より報告を行った。

（５）その他

配布資料

・第 572 回番組審議会（令和８年９月）議事録
・視聴者対応報告資料（令和８年９月分）
・番組種別報告資料（令和８年４月～９月分）

・10 月期タイムテーブル

・モニターリポート

・次回審議番組ＤＶＤ

『ＮＢＳフォーカス∞信州　信州ワイン風土記　～二人の作り手の一年～』

・次回審議番組資料

・ＢＰＯ報告（ＮＯ．294）

・民間放送ニューズレター（第 2255 号）

以上